

さいたま市立北浦和図書館

## 開館 50 周年記念誌



開館前の写真。写真左下の掲示板に「1月11日 オープン!」と書かれたポスターが掲示されています。

[写真 アーカイブズセンター提供]

令和6年1月



# 目次

はじめに . . . . .	1
北浦和図書館（旧浦和市立図書館）のあゆみ . . . . .	2
埼玉新聞に掲載された浦和市立図書館 . . . . .	31
浦和市立図書館開館一年後の状況 . . . . .	33
浦和市立図書館開館時、1～3階の館内配置図 . . . . .	35
北浦和図書館開館50周年記念イベント一覧 . . . . .	36
編集後記 . . . . .	41



図書館完成予想図

# はじめに

北浦和図書館長 大橋 義武

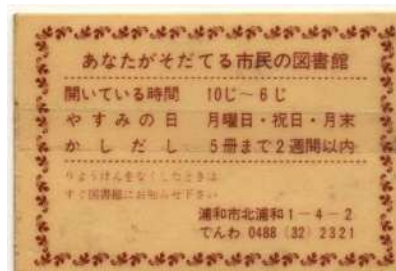
令和6年1月11日、北浦和図書館は開館してから50年を迎えることになりました。昭和49年1月11日に浦和市立図書館として開館してから現在まで50年の間、大変多くの方に御利用いただきました。皆様に御利用いただいてこそこの図書館であり、職員一同、心から感謝申し上げます。

図書館では、その間、移動図書館の巡回開始、おはなし会・映画会等の各種催し物の開催、各ボランティア団体の発足、中央分館（後の東高砂分館）の開館、学校図書館支援センターの開設、東日本大震災の影響による開館時間短縮、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館等、様々な出来事がありました。その中でも、北浦和図書館にとって1番大きな転換期となった出来事は2007年（平成19年）のさいたま市立中央図書館の開館でした。同館の開館にともない、それまでの市の中心館的な役割を終え、図書館内のレイアウトを大幅に変更して、北浦和周辺の地域の図書館として再出発し、現在に至っています。

開館50年を迎えるにあたり、この間の出来事を駆け足ではありますが、その折々に在籍していた職員、ボランティアの方々の「思い出」を織り交ぜながら年表として振り返ってみました。

この50年間に市名が変わり、図書館名が変わり、図書館としての役割も変わりましたが、これからも地域の皆様に御利用いただけるよう職員一同努めてまいります。

※当時の職員やボランティアの方々から頂いた「思い出」の原稿については、その表現をできるだけ尊重し、掲載いたしました。



昔の利用券。市外局番の表示が年月を感じさせます。

## 北浦和図書館（旧浦和市立図書館）の歩み

1970年(昭和45年)

3月 ・ 市立図書館建設誘致促進期成会結成

1971年(昭和46年)

8月 ・ 「浦和市勢振興計画」にて図書館建設を決定

9月 ・ 国庫補助金に伴う原案作成

11月 ・ 市立図書館敷地（現在地）を市が買収



1972年(昭和47年)

7月 ・ 基本設計決定

9月 ・ 市議会に市立図書館建設議案提出し可決される

10月 ・ 地鎮祭挙行、着工



地鎮祭後の工事風景

1973年(昭和48年)

4月 ・ 図書館準備室発足(教育委員会内)



### めざしたもの

植田 喜久次（準備室発足時職員）

「沢山の本をかかえて待つ親子やっと図書館出来たわが市に」<sup>1)</sup>  
2023年5月の新聞投稿歌である。現在では3,000余の図書館数であるが、1960～70年代、小生が担当していた図書館調査では1,500余にすぎなかったのだが、狙っていたのは市町村での図書館義務設置であり、司書有資格館長の配置であった。帰結するところ

は図書館法の改正であったのだが...

当時、目立ったのは県庁所在市での図書館未設置で、そこに1974年1月11日浦和市での開館である。めざしたのは①最低限15%の貸出登録率、整えられた資料群を備えることで②調べることに対応できること、③過不足なく学ぶことに対処できること、であった。

全ては資料費の裏付けがあつてのものである。だが、資料費は削られていき、その上例外であろうとされた公共施設にも委託の波が押し寄せてきていた。

2000年以後市町村の90%余に図書館が誕生し建築的に偉容を誇り居心地の快さを謳ったとしても、内実は委託化の渦中にある。図書館に限らずそこ彼処に非正規の職員が配置されるようになり、技術の継承は覚束なくなつたのではなからうか。小生が整理技術の担当であつた頃、何処の館にも信頼に足る司書の存在があつた。それが目録カードが廃され機械化されるに及んで、データ付資料の購入に至っては、技術の経験蓄積は希薄化してしまつた。寡聞にしてあやふやであるが、現場から整理技術の委員は選べなくなつてゐるのではなからうか。

退職して20年余に起居する悔と不甲斐なさの中で、蔵書点検での紛失率には懊悩の限りをつくした。古本屋さんの棚に並んでいましたよ、更には他市の店頭に在りましたよと知らせを受ける応接には、言葉も出せなかつた。過去の光景になつてしまつただろうが、1週間余での蔵書点検はカードと現物との付き合いせなのだが、全蔵書に当たることは適わず部分的に進めるしかなかつた。そこにバーコードの登場で事情が一変し、不始末が明瞭になつた。われわれは盗られる盗られないに対処しているわけではなく、読んでみたい等に有るべきものはつきりさせておく必要があるのであつて、そこに図書館のシステムが存在するのだと考え、未だ紛失率が公にされたことはないが保存図書館を熱望してゐたのだつた。

振り返つて、図書館に限らず誇りをもつて安定して継続できる職場環境を求めている自分がある。一方で、ミスしたことや臍を噛んだことばかり浮かんでくるのだが、山田洋次監督来演で締めた映画会がいつだつたかはつきりしないのに、手作り人形劇「セロ弾きのゴーシュ」で地下ホールを子ども達で満杯にした思い出は外せないのだつた。

1) 2023年5月21日発行 朝日新聞朝刊8面 朝日歌壇 掲載作品





## 市立図書館開館準備の思い出

小林 孝雄（準備室発足時職員）

北浦和図書館開館 50 周年おめでとうございます。私は開館の前年に教育委員会に出向し図書館準備室専門員に異動になりました。半世紀前のことで記憶も曖昧ではありますが全職員（事務・司書）12 人程でスタートしたと思います。最初は図書館管理運営のことが分からず、埼玉県立図書館から来られた室長（初代館長）の故鈴木四郎さんにご指導を受けました。室長のお供をして日野市立図書館など数館を視察させてもらい大いに勉強になりました。温もりのある木製の書架や机・椅子などの設置は視察先の製品を参考にして特注したもので満足いくものができあがりしました。図書館管理運営規則を検討する時は図書の貸出しの他にレコード盤やカセットの貸出しもするというので使用の仕方によってはすぐに破損するのではと心配しました。当時は利用者へのサービスはどこまで必要なのか考えさせられました。こうした中で勤務後のたまの息抜き一杯会は職員間の意思疎通と融和をはかるためにも大切な時間でした。開館を間近にした 12 月はまだ暖房やエレベーターも動いていない中で消耗品や備品が次から次へと運び込まれ階段を使用しての作業が遅くまで続けました。開館してみると利用者の評判も良く旧浦和市民一人当たり図書貸出冊数は年 2.5 冊と全国で注目される市立図書館になりました。これも鈴木館長をはじめ全職員一丸となって準備した結果であり楽しい思い出でもあります。



開館準備中の風景。本棚に入れられる前の本がそこかしこに積みあがっています。



11月 ・ 本体工事完成、図書館準備室移動（現在地）



図書館竣工時の写真  
西面、南面

準備室は図書館内に移動  
しましたが12月時点では  
まだ暖房やエレベーターは  
動いていませんでした。

12月 ・ 落成式挙行

落成式の看板がかかる  
図書館



1974年(昭和49年)

1月11日 ・ 浦和市立図書館開館



## 市立図書館開館の思い出

鬼頭 宗範（準備室発足時職員）

開館50周年おめでとうございます。

私は昭和48年4月から60年の南浦和への異動まで奉仕係とし12年間在籍した。その後平成17年から19年3月まで再び勤務し、私の図書館員生活の最終を北浦和図書館で迎えることが出来た。退職後16年が経ち記憶が曖昧になっていますが初期の図書館の印象に残っている私事を書いて「思い出」としたい。



48年4月1日、旧浦和市役所2階に鈴木図書館準備室長以下7名の職員が集まった。5月に司書職は、文蔵小学校の空き教室に移り、資料の収集・整理を行った。字が下手だった私は、専ら本のフィルム掛け担当で1日に何冊出来たかを競い合った。目録カード作成・装備まですべて手作業であった。

移動図書館車は、車体選びから始まり、架装を委託した林田製作所に何度も足を運び多くの冊数が積載出来るよう工夫した。

完成した図書館に移動し配架作業に連日遅くまで残業した。12月の落成式は、徹夜明けで迎えた。

翌年1月11日いよいよ開館。職員の平均年齢は24歳であった。私は26歳。皆若かった。

利用状況は日本一の貸出を数えた。貸出記録は8ミリカメラのコマ撮りでフィルムが回っていないトラブルが結構あった。52年からコンピュータ処理に変更、バーコードプリンターを持ち込み資料へのラベル貼りを3階の書庫で行った。今ほどスキャン精度が良くなく貸出カウンターでは苦勞した。年度末の整理期間、階段に並んで手渡しでの資料移動で腕が痣だらけになった。女性も同様に作業をした。子供会の人形劇、講座の企画、色々な業務に携わることが出来た。大変だが充実した仕事だった。

図書館は、相川市長・武藤会長・本多委員・服部教授・市の職員・業者の方々、多くの人によって育まれてきました。

これからも市民に不可欠の愛される図書館としての活躍を祈念いたします。



## 図書館の思い出

間瀬 久子（市立図書館開館時職員）

「新しい図書館の開館にあたって、浦和市で司書の採用があるから、受けてみれば」とアルバイトをしていた埼玉県立図書館の方に声をかけていただき、受験して働くことになりました。埼玉県立図書館ではタイプができるからと事務室の片隅でヘディングを打っていただけですし、司書の資格も大学の司書課程でしたので、とても堂々と資格がありますと言える状況ではありませんでした。

開館準備で書架に真新しい資料を並べるところからの参加でしたが全てが勉強でした。開館後は沢山の利用者が押し寄せ、貸し出し方式はブラウン式に比べると格段に速いフォトチャージシステム、と想像していた図書館とはかけ離れ、驚くことばかりでした。選書に携わることなど思いもよらない新人としては、利用者にも褒められていた蔵書構成を学んだのは排架や書架整理、カウンターです。

後年、学校図書館支援に携わることになり、学校教育への関わり方に戸惑いを感じていたとき時に、「あなた達は司書でしょう」と言われ、司書なら奉仕対象は選ばないという心構えも認識させられました。

北浦和図書館が私の司書としてのスタート地点であったことに感謝しています。



## 4月 ・移動図書館「しらさぎ号」巡回開始



## 出発、しらさぎ号

稲原 守夫 (初代しらさぎ号巡回開始時担当職員)

昭和 48 年 4 月時、事務室は間借りで、蔵書 1 冊もない。こんな状態で翌年 1 月に開館するという。準備業務は山積みしており、カード目録に象徴されるように、すべて手作業なのである。移動図書館が入りこむ余地はなかった。ところが秋頃になって、どこかで鶴が鳴いたようなのだ。

翌年、市立図書館が開館して程なく、車両の改装と併行して、移動図書館の名前が公募された。浦和の代表的風物、「白さぎ」と「さくら草」が圧倒的多数で事業の性格上、白さぎが妥当となった。初代しらさぎ号はマイクロバスの改装で、座席部分を取り払い内外書架に 3,000 冊を積載し、後部席にカメラ内蔵型貸出機を積んで巡回した。昭和 49 年 4 月の出発式は、車庫前で市長さんなどのテープカットが行われた。最初の駐車場は田島団地だったが、あいにくの雨で近くの小学校からテントを借りて業務を行なった。図書館同様にフライング気味のスタートだったが、浦和市民の旺盛な読書欲と相まって順調に貸出数が伸びた。職員体制が整ってからは、火曜から金曜まで、雪の日以外、どんな天候でも出かけた。その後、2 代目以降からはトラックシャーシの組上げ改装となり、現在の移動図書館車のベースモデルとなった。振り返ると移動図書館での体験は、司書人生において、とりわけ懐かしく貴重なものだった。



初代移動図書館しらすぎ号。その後、第4代しらすぎ号まで製作され 2007 年 11 月まで、市内各所を巡回していました。



- 5 月 ・おはなし子ども会始まる
- ・市民映画のつどい始まる
- ・レコードコンサート始まる



## かけがえのない日々

川田 明子（市民映画のつどい担当職員）

浦和市立図書館開館 50 周年おめでとうございます。

少し不思議な気持ちでした。担当者の方から原稿依頼の打診があったそのほんの 2、3 日前、NHK で『幸福の黄色いハンカチ』の番組を放送していたのを見て、山田洋次監督と 2 人で乗った図書館のエレベーターのことを思い出していたのです。当時私が担当していた視聴覚資料というとレコードや 16 ミリフィルムで、市民映画のつどいという企画も担当の一つでした。1976 年に、映画『家族』の映写と、山田監督の講演「わが映画の世界」という今ではちょっと信じられない企画が実現しました。監督は、監督の描く映画の世界そのもののような方で、きっとだからこそ手書きのポスターで図書館のホールに市民が集うという、小さな映画会のための講演依頼をお引き受けくださったのだと思い、今また感動を新たにしています。あの日ホールはいっぱいだったと記憶していますが、映画や監督のお話が市民の方々のどなたかの心に届き響かせたものがあったとしたら、携わった一人として本当に幸せだと思います。

そしてこのような企画以外にも、日々の地道な資料整理や点検、カウンターでの市民の方々との交流、職員同士の絆、勤務年数は短かったのですが、あの若き日の懐かしく充実した毎日にはかけがえのないもので、今も私の根底をしっかりと支えています。



- 7月 ・ 図書館協議会発足
- ・ 館報「しみんのとしよかん」創刊



### 「しみんのとしよかん」 創刊号の表紙

1974年7月25日に創刊号が発行されました。隔月で発行され、そのときどきの図書館の紹介記事や新着図書、開催されるイベントの案内などが掲載されていました。

1975年(昭和50年)

- 5月 ・ コピーサービス開始
- 6月 ・ 音訳グループ「木曜会」誕生
- 7月 ・ 対面朗読サービス開始



## 音訳グループ「木曜会」誕生期

佐々木 美津子(「木曜会」発足時メンバー)

北浦和に「浦和市立図書館」が開館されたのが、昭和49年1月。その翌年6月に「視覚障害者のための朗読奉仕講座」が開催され、5回の講座終了後結成されたのが「木曜会」。情報の入りがたい視覚障害者の方々に、毎月の「浦和市声の広報」、毎週の「新聞コラム」、隔月の「暮らしの手帳」等定期刊行物発行を軸に、対面朗読、希望図書録音

等々地道な活動を続けて参りました。大勢で係わる物は図書館地下の広い講座室で、個人が預かった1冊の本等は自宅での録音。騒音に悩まされながらの録音はきつかったですが、その後、図書館2階に小さな録音室が設けられ、落ち着いてマイクの前に向き合うことが出来るようになりました。但し、太田窪の我家から北浦和の図書館まで30分、自転車のペダルを漕いでの往復はきつかったけれど、懐かしい思い出です。

調べ等大変な事も多々ありましたが、「突然の失明で活字、そして書物が消えてしまった」と言われる利用者の方から「図書館から送られた『天声人語』『余録』のテープ図書を初めて聞いた時、聴こえてくる言葉の中に、活字が見え、インクの香りがした」と嬉しい感想を戴き、これを励みに続けることが出来るのでした。勉強をさせて戴き、感謝を戴き、図書館は私たちにとって「宝の庫」でした。

中央図書館に移って17年。会を立ち上げてまもなく50年！一層の努力発展に努めて今があります。ご利用くださっている皆様には心から感謝申し上げたいと思います。



1976年(昭和51年)

- 2月 ・視覚障害者に向けて「声の広報」発行開始
- 10月 ・浦和市立図書館中央分館開館



## 中央分館とともに

大野 利昭（中央分館開設担当職員）

浦和市立図書館が北浦和に開館したのが昭和49年。当初から驚異的な貸出数を記録し、市内外から一躍注目、評価された。そんななか、浦和駅東口に再開発計画があり、市は権利を取得するため民間ビルを借用することになった。2階建てのビルで、2階部分を借用し図書館と青少年課でそれぞれ使用することになり、昭和51年に中央分館が開館した。

開館準備では、駆け出しの私には分からないことだらけ。当時の植田係長からいろいろ教示していただいた。なかでも館内レイアウトの作成は、今ではパソコンで図面を簡単に描けるが、当時は方眼紙に書架の縮尺図を描き、切り抜き、図面にあれこれ並べて試作した。効率的なやり方に感心した。

建物は使い勝手が悪い。天井は低い。床は波打って平らではない。ブックトラックが真っすぐ進まない。右へ逸れたり左に寄ったりと難儀した。冷暖房機は旧式で大型、操

作は自分達でした。奉仕業務から設備の管理まで一通り貴重な経験をさせてもらった。

その後、中央分館は3回拡張され、その都度何らかの形で業務に携わった。3回目で建物全体を使用する大きな分館へと成長する。そして最後は、さいたま市の中央図書館へ引き継がれる。中央分館は当初の目的を達成して任務を終える。私の図書館員人生は中央分館の変遷と多く関わり、ともに歩んできた。



開館時は建物の半分程度を使用していました。その後、改装を重ね、徐々に使用面積が広がり、中央図書館開館にともなう閉館時(2007年9月)には建物の大部分を図書館が使用していました。



1977年(昭和52年)

5月 ・ フォトチャージからコンピュータに貸出方式が変わる

1979年(昭和54年)

7月 ・ 「本は王さましんぶん」を創刊



1980年(昭和55年)

4月 ・ 移動図書館しらさぎ号の貸出がコンピュータ化される

1981年(昭和56年)

2月 ・ 移動図書館 新装「しらさぎⅡ号」巡回開始  
・ 地域資料コーナー設置

1986年(昭和61年)

5月 ・ 「本は王さま通信」を創刊  
6月 ・ 絵本と紙芝居の会始まる  
8月 ・ 浦和市立図書館中央分館拡張全日開館となる





1987年(昭和62年)

6月 ・学校訪問開始

1988年(昭和63年)

2月 ・移動図書館 新装「しらさぎⅢ号」巡回開始

11月 ・第1回図書館まつり実施



オープニングセレモニー



図書館まつりプログラム

1989年(平成元年)

9月 ・浦和市立中央図書館及び地域図書館整備計画の策定



## 10館構想の思い出

阿部 峰雄(図書館整備計画担当職員)

図書館法という優れた法律がある。長い間この法律を活かす主体が無かった。公共図書館は公共(パブリック)を維持する社会教育施設である。全市民が対象となる。

当時、日本図書館協会が出版した『市民の図書館』に“図書館の組織網をきずくために”という項目がある。市町村の全域に“中央館、分館を設置し、移動図書館を巡回させ全市民に水道の蛇口をひねれば貯水池から水が流れてくるように”全資料が提供できるようにサービス網を構築する。

浦和市に適応させるには図書館整備構想を策定するのが第一歩である。構想には、同規模の自治体の調査、蔵書計画、分館の規模と配置計画等々、当時、先進的な図書館活動を行っていた多摩地域の自治体では、10,000冊程度の分館を設置する図書館が多か

った。しかしこの程度の蔵書では児童書、基本図書、フィクション、実用書などを考慮すると充分ではない。そこで必要冊数を積み上げ、最低でも 40,000 冊以上の蔵書をもつ分館を構想の基本とした。結果的には 100,000 冊以上の地域館となった。

配置計画として、すでに浦和市立図書館、中央分館、南浦和図書館が設置されていた。京浜東北線に沿って南北に 3 館あることになる。浦和市は東西 15.8 k m、南北に 9.9 k m で東西に長い。西側の久保・土合地区に南北に 3 館、東側の三室・太田窪地区に南北に 3 館、東北自動車道の東側美園地区に 1 館設置することで、10 館構想の基本となる核とした。図書館整備構想が図書館内でとどまっていたのなら、雲散霧消することになっただろう。この 10 館構想が現実へと向かうことのできたもうひとつの理由は、教育委員会内での承認が大きかったと思う。

平成 13 年の合併によって 10 館構想は頓挫した。図書館の組織網は、ハード・ソフト両面で構想する必要がある。さいたま市図書館として新たな組織網が望まれる。



1990 年(平成 2 年)

4 月 ・利用者用資料検索システム稼働

1991 年(平成 3 年)

12 月 ・ビデオテープ貸出開始



1993 年(平成 5 年)

11 月 ・浦和市立図書館開館 20 周年記念式典 記念誌「ほっこりしている 街の図書館へ」発行  
・**図書館友の会発足**



## 図書館友の会発足時の思い出

大間知 晋輔 (図書館友の会発足時会員)

図書館友の会は、平成 5 年 11 月 7 日、北浦和(市立図書館)、東高砂(中央分館)、南浦和(南浦和図書館)の 3 支部 112 名の会員でスタートしました。

当初の活動は、①勉強会と②ボランティア活動の二本柱で、①は図書館の司書の方を囲んでの輪読会や、朝霞市立図書館(と友の会)見学会など、友の会の運営の方策を



皆一生懸命に学びました。②は館内美化活動から始まり以後排架・図書修理と徐々に広がっていきました。

北浦和支部のボランティア活動第1号は図書館の要請により、図書館前庭の展示ケースに子ども向けの折り紙・貼り絵を展示することになりました。7名もの大人が慣れない折り紙制作に四苦八苦し、翌年3月に第1号作品「お雛様(巨大な夫婦雛)」が完成。ヤレヤレと一息つきましたが、以後この活動は30年間に及び今年6月、作品数155号に達しました。

次は、「第7回図書館まつり7月23・24日」に参加です。私達は初めての試み「古本バザール」を担当しました。当日は強い陽ざしの下、駐輪場にテントを張っての臨時会場です。オープンから利用者の方が引きも切らず来場され、ごった返しの中をお目当ての本を探し出した時の喜び、これにお手伝いし探し当てたご本人と一緒に嬉ぶ嬉しさ、高揚感が忘れられない。本番前の何日にもわたる準備の苦労もなんのその、友の会が係わった初めての大事な、バザールは無条件に楽しいものでした。

友の会は今年30周年を迎えることができました。図書館の方々のご指導・ご支援があったればこそ、感謝あるのみです。



## 図書館友の会発足のころ

高橋 優子 (図書館友の会発足時担当職員)

平成5年の春、上司が「友の会作るから。高橋担当ね」と言いました。「図書館友の会って何するんですか?」「アメリカの図書館には普通にあるんだよ。図書館を支える市民の会だ」「友の会に入ると何かいいことあるんですか?」「図書館で友の会の活動ができるんだ」よくわからないながら、会費を払って会員になる人なんているのだろうかと思いました。11月に浦和市立図書館開館20周年記念式典で友の会発足大会を行うことが決まっていました。

とにかく会員を募集しなければなりません。6月から募集を始めましたが、活動内容が決まっていないので、「図書館が好きな人は会員になってほしい」というようなぼんやりした内容のチラシを作りました。すでに図書館で活動をしていた朗読ボランティアさんや家庭文庫のみなさん、図書館を友とする会のみなさんに入会をお願いをしました。7月から入会申し込みの受付を開始しましたが、当初は団体としての登録はせず、家族登録を含む個人登録のみでした。入会申込用紙には、どんな活動がしたいかを記入する

欄をもうけました。9月24日に熱心な会員のみなさんをお願いして発足大会準備会を行いました。会則の案を作成し、役員体制の互選、活動内容について検討しました。この日、職員主導で大久保地区の地区住民の集会で図書館の設置を望む声を紹介した「友の会だより」創刊準備号を発行しました。「友の会だより」の編集委員を募り、発足大会までに会員の手による創刊号を発行することになりました。上司に会員証のデザイン案を作るように言われましたが、提出したデザイン案を見た上司は私のセンスのなさに愕然とし、後輩の職員に会員証のデザインを依頼しました。(…だから、無理だって言ったじゃありませんか…) 風船をデザインした会員証は、かわいらしく、会員にも好評でした。この会員証を発足大会から配布することにしました。後輩職員は、このあと友の会の担当として活躍してくれました。

11月7日友の会発足大会が行われました。記念講演は、浦安市の友の会の方に「わたし達の図書館」というタイトルでお話いただきました。11月中に役員会が行われ、北浦和、東高砂、南浦和の各活動内容を決定しました。各支部での活動が始まり、排架や美化運動、古本バザールのほかに、図書館にかかわる以上、図書館を知らなくてはならないということで『われらの図書館』の輪読会なども行われました。各地の友の会との交流や見学会の開催など友の会のみなさんが主体的に活動の幅を広げていかれました。

会員が集まるのだろうか心配していましたが、初年度は144世帯276人の方に会員になっていただきました。会員になってくださるみなさんがいるということは、図書館が愛され、必要とされているのだなと実感できてうれしくなりました。



#### 1995年(平成7年)

- 4月 ・ J-BISC(国立国会図書館蔵書目録のCD-ROM版)、彩-BISC(埼玉県立図書館蔵書目録のCD-ROM版)を導入



#### 1997年(平成9年)

- 4月 ・ 開館時間を延長(火～金曜日、午後8時まで)
- ・ ブックディテクションシステム導入

#### 1998年(平成10年)

- 1月 ・ 移動図書館 新装「しらさぎIV号」巡回開始
- 12月 ・ 学校図書館支援センターを設置



## 学校図書館支援センター発足にまつわる思い出

尾崎 尚子（学校図書館支援センター発足時担当職員）

学校図書館支援センターは、市立図書館と学校図書館の連携を推進した全国的にも珍しい取組です。担当時の思い出深い事柄の一つ目は、1998（平成10）年12月にオープンした学校図書館支援センターの成り立ちについてです。学校図書館へのサービスを開始して短期間で飛躍的に利用が増加し、浦和市立図書館に併設されていた「市民の窓口」が移転し、空いたスペースに学校図書館を対象とするサービスの拠点を設置することになりました。名称がないと何かと不便だったので、仮に学校図書館支援センターと言っていたところ、実際の名称となりました。二つ目は団体貸出についてです。最初は運搬を学校にお願いしていましたが、1998（平成10）年に、配送業者委託が開始されました。貸出しする本を段ボール箱に詰めて秤で重さを量りました。重さは1箱最大20kgまでだったと記憶しています。重たい段ボール箱は、平行移動は出来るものの、持ち上げること等が大変で、体力勝負でした。学校図書館支援センターを担当していた時は忙しいながらも、児童・生徒・学校図書館司書や先生との交流も多く、充実した日々を過ごしました。今後も館種を超え、こどもと本が出合う機会を増やすべく、社会情勢に即した在り方を模索しながら連携を進めていってほしいと願います。最後となりましたが、学校図書館サービスの始動期にお世話になり、今は亡き小林申幸南浦和図書館長（当時）と北村好史指導主事（当時）をはじめ、お力添えいただきました全ての方々に、深く感謝いたします。



### 現在の学校図書館支援センター

北浦和図書館の3階に設置されていて、約60,000冊の蔵書があります。学校からの要望に応じて本を箱に詰めて搬送します。本は各学校の授業で利用されています。



1999 年(平成 11 年)

3 月 ・ 祝日・月末開館(土、日曜日と重なる日)の試行開始

2000 年(平成 12 年)

2 月 ・ インターネット用パソコンを利用者に開放

2001 年(平成 13 年)

5 月 ・ さいたま市誕生

・館名が浦和市立図書館から「さいたま市立北浦和図書館」に、浦和市立図書館中央分館から「さいたま市立北浦和図書館東高砂分館」にそれぞれ変更となる

2003 年(平成 15 年)

4 月 ・ さいたま市、全国で 13 番目の政令指定都市となる

・祝日開館試行開始(北浦和図書館・東浦和図書館・大宮図書館・大宮西部図書館)

・さいたま市よい本を読む運動推進委員会の事務局が青少年課から北浦和図書館に移行される



## 「さいたま市よい本を読む運動推進委員会」事務局の思い出

吉田明美(初代事務局担当職員)

平成 15 年、青少年課から北浦和図書館に事務局が移行され、担当と言われたときはどう接していいかわからず不安でしたが、初めての総会出席で、会員方にお会いして、その不安は解消されました。

「さいたま市よい本を読む運動推進委員会」は、「一人でも多くの子ども達に素晴らしい本と出会ってほしい」をスローガンに、昭和 42 年から活動している「読み聞かせ」団体です。平成 15 年 10 月、児童福祉課の依頼を受け、旧浦和市エリアの「ブックスタート事業」に、協力いただきました。

図書館職員と会員で、実際に赤ちゃんと保護者に絵本の読み聞かせをし、「絵本で楽しむひととき」を願って、ブックスタートの絵本を手渡しする仕事は、私にとって癒された楽しい時間でした。また、初めて同行した研修視察のバス中で、活動報告や朗読が行われたときは、熱心さに感心しました。

スキルアップを目指した講演会・定例会・その他事業に参加し、会員の方と共有した時間は、よい経験になりました。

私の図書館人生、楽しいこと・辛いこと・色々なことがありましたが、北浦和図書館での、職務経験があったからこそ、乗り越えられたと思います。

これからも、市民に寄り添い、愛される図書館であり続けてほしいと思います。

\*「さいたま市よい本を読む運動推進委員会」事務局は、平成19年11月29日さいたま市立中央図書館開設に伴い、同館に移行しました。



## 2005年(平成17年)

- 3月 ・図書館コンピュータシステム一元化
- 4月 ・岩槻市がさいたま市に編入し、さいたま市図書館に岩槻図書館・岩槻駅東口図書館・岩槻東部図書館が加わる
- ・岩槻図書館の移動図書館こだま号廃止にともない、しらさぎ号がこだま号担当駐車場へ巡回開始

## 2007年(平成19年)

### 2月 ・北浦和図書館リニューアルのための臨時休館 (2月26日～3月9日)

#### 中央図書館閉館に向けて館内レイアウト変更等を実施

※3階一般書、参考資料等を2階へ。2階一般書、文庫等を1階へ、1階新聞を2階へそれぞれ移動。

※児童室を1階東側から3階西側へ。学校図書館支援センターを1階旧出張所(市民の窓口)から3階東側へ移動。

※学校図書館支援センターは拡充し、近隣校貸出から市全域貸出へ変更。他館から学校貸出用資料を移管した。





## 中央図書館の資料整備と北浦和図書館のリニューアル

分須 正弘（中央図書館開設準備担当職員）

平成 13 年 5 月、旧浦和市、大宮市、与野市の三市が合併して「さいたま市」が誕生した。それに伴い、館名も「浦和市立図書館」から「さいたま市立北浦和図書館」へ、「中央分館」も「東高砂分館」に変更となった。しかし中央図書館がないため、各図書館が横並びの中、北浦和図書館が当面、中央図書館的役割を果たすことになった。

そんな中、平成 19 年 11 月、中央図書館の開館が予定され、私はその資料整備を担当するというので、平成 18 年 4 月、大宮図書館から北浦和図書館へ異動となった。ただし、通常の北浦和図書館の資料業務を遂行しながらの担当ということで、たいへん厳しい状況であった。

中央図書館で予定されている開架図書は約 25 万冊で、一般書は 22 万冊、児童書は 3 万冊。そのうち 12 万冊は、中央図書館開館とともに閉館となる東高砂分館からの移管が予定されていた（一般書 9 万冊、児童書 3 万冊）。一般書の残り 13 万冊のうち、新規購入の予算で購入できるのは約 6 万冊。残り 7 万冊は既設館からの移管が予定されていた。特に中央図書館的役割を果たしてきた北浦和図書館が、中央図書館開設とともに地域図書館として縮小リニューアルすることになるため、そのほとんどが、北浦和図書館の蔵書から移管することが予定された。

そのため、北浦和図書館のリニューアル計画を決めることが最優先課題となった。つまり、リニューアルされる北浦和図書館に残す本を決め、あふれたそれ以外の本は中央図書館に移管、東高砂分館からの移管図書と合わせて、不足分を北浦和図書館の書庫や他館から移管することになった。

リニューアルについては、何度も打ち合わせを繰り返した結果、大幅なレイアウト変更となった。1 階の児童書を 3 階西側へ移動、1 階へは小説・エッセイ、文庫、実用書を移動し、東・南側の低書架を雑誌コーナーとした。3 階の一般書、参考図書、地域資料、1 階の新聞を 2 階へ移動。3 階の東側には、学校図書館支援センターを設置した。

リニューアル作業は、平成 19 年 2 月 26 日から 3 月 9 日にかけて行われ、北浦和図書館はさいたま市の地域図書館として、再出発することとなった。





館内リニューアル中。1階の資料を3階へ、3階の資料を2階へ移す等、大幅なレイアウト変更を実施しました。この変更により現在の北浦和図書館の資料配置となりました。



## 地域の図書館として再出発

並木 せつ子（再出発時館長）

私は4度、北浦和図書館（以下北浦和）に勤務した。最初は浦和市立図書館として開館したとき。その後は、南浦和図書館に異動して戻り、東高砂分館に異動して戻り、与野図書館に異動してまた戻り、という具合。必ず北浦和に一旦出戻ってから次へ異動していたのだ。

平成19年度は3度目の出戻りのときだ。中央図書館（以下中央）の開設準備係があったときで、4階の事務室には机がぎっしり並び、3階の事務スペース（後の学校支援センター）も、地下の講座室や廊下も、階段も、館内の至る所が人とモノでいっぱいだった。11月に中央が開館するまでの半年余の記憶といえば、中央の膨大な量の書類に、ひたすら印鑑を押していたこと。北浦和独自の取り組みだってあったはずなのに、“もやもや”“あたふた”という映像にならないものしか浮かんでこない。

その中で1枚だけ心に浮かぶ映像がある。4階のコンピュータ室だった部屋（後の会議室）に取り残された、埃とゴミにまみれた1台の機械と大量のケーブル——それは大蛇のように床にのたうちからまりあっていた——、それを呆然と見つめる自分の姿だ。中央にコンピュータ室が移転した後だったのだろうか、前後の記憶ははっきりしない。この光景を見たときに、私は北浦和の現状をはっきり把握したような気がする。中途半端になった資料構成、方向性すら定まらない雑然とした状況……私は山積する課題の前で呆然としていたのだ。嵐のあとのような光景が、私にあえて覚悟を促したのかもしれない。

20年度にかけては地域図書館としてスタートするため、課題を整理しながら、サツマイモ、ウナギ、浦和など、特性を生かした取り組みに着手。のろい歩みながらも、いずれは……のはずだったが、翌年4月に中央へ異動。そして4度目の出戻りは無かった。

あれから 15 年、その間に勤務した多くの職員の方で、北浦和図書館は地域図書館としてしかと根づいているようだ。めでたし、めでたし。



4 月 ・さいたま市図書館全館が 9 時開館となる

5 月 ・窓口業務委託（1 階カウンター業務等）を開始

**9 月 ・北浦和図書館東高砂分館閉館**

※中央図書館に近接しているため閉館。資料は中央図書館へ移管された。



## おつかれさま東高砂分館

佐藤 弘子（東高砂分館閉館時職員）

昭和 51 年 10 月 16 日に浦和市立図書館 2 館目の図書館として開館した中央分館は、中央図書館開館に伴い、平成 19 年 9 月 2 日に閉館しました。

その間、フロア面積を拡張したり、開館時間を変更したりと進化をしてきました。

いろいろな物理的なハンデを先輩方は知恵と工夫で乗り越え、平成 18 年度には資料数約 150,000 点、年間貸出数約 500,000 点という、日本一大きな分館と評価されるに値する館になりました。

目の前で工事中のコンクリートの壁が積み上がっていくにつれ、「ここはどうなるの？」「なくなっちゃうの？」と聞かれるようになりました。

開館の時はくす玉を割るなどのセレモニーもありましたが、最後の日は通常通り閉館時間に出入口を閉めるだけでした。

そして、翌日からは移転に向け、資料の箱詰め、書架の解体、不要品の処分、中央図書館まで台車で荷物を運ぶなど肉体労働に終始しました。

分館勤務だった職員は全員、中央図書館へ異動しました。大海に放された小さな魚のようで心細い思いで中央図書館のカウンターにいと、かつての分館の利用者が来館され、そっと「分館は良かったわ。」とか「なくなってとても残念です。」などと言ってもらえることが励みになりました。

めったにない図書館の閉館に立ち会えたことは、40 年の図書館人生の中でも貴重な体験だと思っています。





11月 ・中央図書館開館

※図書館組織の再編成により、北浦和図書館は拠点図書館となる。

12月 ・11月30日の最後の巡回を終え、移動図書館しらさぎ号廃止  
(排ガス規制による廃車)

※しらさぎ号担当駐車場の巡回は大宮西部図書館の宝くじ号が引き継ぐ。

2008年(平成20年)

・この頃、地域資料として「うなぎ」、「さつまいも」の関連資料を収集し始める

※その後、独立したコーナーとなり現在に至っている。



現在の「うなぎとさつまいも」コーナー

2階に入ってすぐの場所に設置されています。うなぎとさつまいも関連の本が約650冊置かれていて、ブックリスト「読むうなぎ」と「読むサツマイモ」を配布しています。



ブックリスト「読むうなぎ」と「読むサツマイモ」



## 「うなぎとさつまいも」コーナーの思い出

山田 玲子（地域資料担当職員）

「うなぎとさつまいも」コーナーが設置されて間もなく、古巣の北浦和図書館に再び勤務することになり担当を任されました。浦和と言えばうなぎ、というのは地元の人にも知られていますが、さつまいもについてはそれほどではありません。発見者の山田いちさんが、後に「紅赤」と名付けられる美しくおいしいさつまいもの苗をひとり占めせずに誰にでも分け与えたことから、現在までこの品種は続いています。こんな地域の宝物を、このコーナーからたくさんの人に知らせたいと思いました。そのためには、自分自身がさつまいもを知る必要があると、まずは図書館の屋上で苗を植えました。荒天の時はさつまいものことが心配で、無事に収穫できた喜びは格別でした。その間、さつまいもへの興味は尽きず、どんどんその魅力にはまり込むことになりました。幼稚園やNPOの人たちと焼き芋を楽しみ、川越のさつまいも関係者の応援で蔵書も充実しました。市や県の農業関係部署との連携もでき、まさに芋づる式に活動は広がりました。

うなぎについては、市役所で開催される「うなぎまつり」で、うなぎづくしのおはなし会で人形劇も披露しました。なぜ図書館がこんなことを？という疑問と共に、地域資料について少し知ってもらう機会になったのではないかと思います。また、浦和駅前の「浦和うなこちゃん」が手に持ったうちわコレクションを図書館で展示できたことも、当時の浦和区長さんの応援があつてのことでした。たくさんの方の情熱と協力で、このコーナーはできています。



うなぎづくしのおはなし会準備中



近所で行われた焼き芋会



5月 ・さいたま市立北図書館開館

※北浦和図書館視聴覚ライブラリーが、北図書館視聴覚ライブラリーに統合される。

2009年(平成21年)

2月 ・アスベスト除去工事による臨時休館

(2月16日～3月27日)

※1階の旧出張所に予約資料貸出窓口を開設。工事中職員は在館。

2011年(平成23年)

3月11日 ・東日本大震災発生。15:30からさいたま市図書館全館臨時休館



地震で本棚から落ちた本。本棚の向きによって落ちた量はさまざまでした。



震災後はホワイトボードを使って計画停電やさいたま市からのお知らせ等の情報提供を行いました。

11月 ・アスベスト除去工事による臨時休館

(11月1日～2012年3月24日)

※図書館裏駐車場で予約資料の日曜貸出実施。ごみ置場を改造し臨時返却ポストとして使用した。

※臨時事務室を中央図書館に開設、学校図書館支援センターは大宮西部図書館に臨時移転した。

2013年（平成25年）

10月 ・耐震補強工事の準備のための臨時休館  
（10月29日～11月4日）

11月 ・耐震補強工事に伴う業務限定開館  
（11月5日～2014年2月21日）

※工事期間中職員は在館。一部職員が他図書館の応援へ赴いた。

2014年（平成26年）

2月 ・耐震補強工事完了に伴う臨時休館  
（2月22日～2月28日）

3月 ・開館40周年記念誌『北浦和歴史再発見—開館40周年記念誌北浦和歴史発掘プロジェクト—』発行



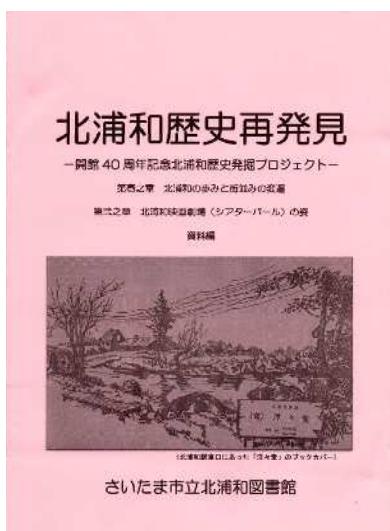
## 開館40周年記念『北浦和歴史再発見』制作の思い出

野尻 靖（北浦和図書館開館40周年時館長）

北浦和図書館の開館50周年おめでとうございます。早いものであれから10年ですか。というのも、開館40周年を記念したプロジェクトの一環として、『北浦和歴史再発見』という90ページ弱の冊子を発行した際に、私は館長として在籍をしていました。そうはいつても、このプロジェクトは私が始めたものではなく、数年前から、既に在籍していた職員によって企画され、多くの資料も集められて準備されていたため、私は担当の職員とともに纏めるという作業をただけになります。

さて、あの冊子編集の中で最も印象的に残っているのが愛川欽也さんのことです。愛川さんの俳優人生は北浦和映画劇場から始まるといわれているため、是非愛川さんに直接お会いしてインタビューさせていただけないかと手紙をお出ししたことがありました。吉報をお待ちしましたが、1か月後位になって（記憶が曖昧です）、若い劇団員のチケットをお送りいただいたことがありました。予算的にお礼も用意できない状況では芸能人ではやはり無理かとあきらめていましたが、それから1年後、私の耳に飛び込んできたのは愛川さんの訃報。しかも1年前からの闘病だったという。まさに、インタビューのご依頼をした頃に体調の変化があったことになります。あの冊子を見ると、そして北浦和図書館開館何十周年という話を聞くと、そんなことが思い出されます。

北浦和図書館の輝かしい歴史がさらに続くことを願っております。



『北浦和歴史再発見 ー開館40周年記念北浦和歴史発掘プロジェクト』  
さいたま市立北浦和図書館/編 2014年  
の表紙

北浦和周辺の街並みの変遷や、北浦和図書館ができる前にその敷地に建っていた映画館「北浦和映画劇場」について詳しく書かれています。その中で北浦和映画劇場と俳優愛川欽也氏の関りについても触れています。



2015年(平成27年)

- 11月 ・ 煙突修繕工事  
(11月12日～11月19日)  
※この期間は暖房なしで通常開館していた。

2017年(平成29年)

- 7月 ・ 中規模修繕工事による臨時休館  
(7月1日～2018年3月19日)  
※臨時事務室及び学校図書館支援センターは大宮西部図書館へ移転した。  
※北浦和公民館に臨時窓口を開設した。

2018年(平成30年)

- 10月 ・ 紅赤発見120周年記念講演会を開催  
講師：埼玉大学上野茂昭准教授(当時)  
※参加者40名。職員によるブックリスト  
「紅赤はサツマイモの女王」を作成し配布した。





2019 年(令和元年)

3 月 ・北浦和図書館で IC タグによる資料管理開始

11 月 ・北浦和図書館では初となる読み聞かせボランティア「ぼっ  
ぽの木」が 12 名で発足



## 「ぼっぽの木の思い出」

丸川 文子 (ぼっぽの木発足時メンバー)

2019 年 8 月、北浦和図書館での読み聞かせ養成講座の募集がありました。それは長年、北浦和図書館スタッフが行っていた日曜日の「えほんのじかん」を担当するグループの発足でもありました。日頃お世話になっている北浦和図書館で自分達が役に立てる事はないだろうか？自分達の好きな絵本を通して、地域の子供を地域で育てていけないだろうか？という思いのあるメンバーが集まり「ぼっぽの木」が立ち上がりました。

まず、養成講座ではおはなしグループどんぐりさんを講師とし、ボランティアの在り方や絵本の見せ方など学びました。後ろの子まで絵が見えているか、絵本の感想が押しつけになっていないか等。また、絵本に即効性はなくても染み込んだ山の水が、溶けて流れ出るように月日が経った時にその子の成長の糧となるものである事も学びました。

この様な勉強会を重ね、いざ本番となった時、後世に語り継がれるコロナ禍へ突入。ぼっぽの木として「えほんのじかん」<sup>1)</sup>を担当する事は叶いませんでした。しかし、出来ることを図書館スタッフと模索し、木曜日のおはなし会を月 1 回担当する事になりました。子供達には私たち大人が失った無限の想像力があります。この想像力の一助になれる様、読み聞かせを続けていきたいと思えます。いつか私たちが読み聞かせをした子供達が、この北浦和図書館に戻って来て、一緒に読み聞かせの活動ができる日を密かな楽しみにしています。

- 1) 「えほんのじかん」は令和 5 年 7 月 30 日に再開。当面、季節（年 4 回程度）ごとに開催していく予定です。



2020 年(令和 2 年)

## 3月・新型コロナウイルス感染症防止のためさいたま市全図書館 が臨時休館を実施(3月2日～5月31日)



### 臨時休館の頃

佐藤 久美(臨時休館時館長)

2019年、中国で未知の感染症の流行が始まりました。年が明けて2020年になると日本でもこの感染症が広まり始めました。新型コロナウイルス感染症です。2月下旬になると、感染拡大に伴い、さいたま市の図書館は定例のおはなし会を中止することになりました。そして2月28日(金)。中央図書館から連絡が来ました。「3月2日(月)から3月31日(火)までさいたま市の図書館は全館臨時休館」。感染症でさいたま市の全図書館が休館!?学校も休校!?前代未聞の状況です。その後、国が4月7日に緊急事態宣言を発令、さらに5月25日まで緊急事態宣言は延長されました。図書館の臨時休館も延長となり、結局、5月31日まで臨時休館となったのでした。

臨時休館中、職員は、本やCDのメンテナンス、書架の移動などに取り組んでいました。図書館ホームページにアップするための図書館の仕事を紹介する子ども向けのコンテンツ等も作成しました。電子書籍利用のために必要な利用登録を特別に郵送やメールで実施したこともありました。利用者の方に来館していただくなくてもできることはないか、今後、安心できる再開に向けてどうしたらいいのか、職員みんなで検討しました。

そして、5月15日。予約取り置き資料のお渡しのための臨時窓口がスタートします。「三密」を避けるため、利用者の方には利用者カードの番号で時間帯を区切って来館をお願いしました。職員とスタッフはマスク、手袋着用、利用者の方にはマスク着用で来館していただき、飛沫防止シート越しの貸出手続きです。カウンターなどの消毒も随時行いました。当時は不織布マスクが品薄でしたので、おしゃれな手作り布マスクで来館された方もたくさんいました。電話で「自分は医療従事者だが図書館に行ってもよいのか?」という問い合わせがあったのもこの頃です。その方には「大丈夫です。お待ちしております。」とお伝えしましたが、医療従事者が一部で差別を受けているという事実と向き合うことになりショックでした。いろいろなことがありましたが、臨時窓口のスタートにより、利用者の方々がいかに図書館再開を待っていてくださったかがわかり、とてもうれしく思いました。

この後、図書館は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用に伴い、感染拡大予防対策として利用制限を行いながら、開館を継続していきます。閲覧用の椅子の撤去。

30分以内の利用。入館者数制限。飛沫防止シート越しのおはなし会。本当にいろいろなことがありました。安全に利用していただくと同時に安全に働くことについて、職員みんなで行った毎日でした。



6月 ・ 6月1日より開館再開

2022年(令和4年)

- 6月 ・ 図書館の友会の協力により1階に「リサイクル本コーナー」を新設
- ・ 3階児童室でSDGsの展示を開始(毎月、17の目標に合わせてテーマを変え2023年9月まで継続)

2023年(令和5年)

- 8月 ・ 子ども達が映画を自主制作するイベント「令和5年度 KIDS 郷育 MOVIE プロジェクト」の会場となる



- 9月
  - ・ 北浦和図書館開館50年とそれにちなんだイベントをPRするためさいたま市図書館ホームページに特設コーナー「北浦和図書館開館50周年イベントを実施しています」を公開
  - ・ 北浦和図書館開館50周年記念イベントとして1階展示ケースで「移動図書館しらすぎ号の歴史」を実施
  - ・ 同記念イベントとして図書館ホームページ内で、うなぎとさつまいもに関するクイズが楽しめる「さつまいも・うなぎ検定」やさいたま市のキャラクター「ヌウ」がさつまいもを持った絵にぬりえができる「さつまいも(紅赤)のぬりえに挑戦」を公開(北浦和図書館のカウンターでもぬりえを配布)
- 10月 ・ 同記念イベントとして1階展示ケースで「紅赤はサツマイモの女王」を実施



- ・同記念イベントとして「さつまいも（紅赤）のぬりえに挑戦」に応募してくれた作品を3階児童室で展示
  - ・同記念イベントとして映画講座『「風と共に去りぬ」～名画をもっとおもしろく』を開催
  - ・同記念イベントとして1階展示ケースで北浦和図書館とその近辺に関する写真展を実施
- 11月 ・同記念イベントとして図書館ができる前にこの地に建っていた映画館、北浦和映画劇場（シアターパール）関連の展示を実施
- 12月 ・同記念イベントとして北浦和映画劇場で実際に上映されていた作品による映画会を実施

\*開館 50 周年記念イベントについては 36～40pの「北浦和図書館開館 50 周年記念イベント一覧」に詳しく掲載しています。

2024 年（令和 6 年）

**1月 11 日 北浦和図書館は開館 50 周年を迎えました。**



# 埼玉新聞に掲載された 浦和市立図書館

開館前後の様子を伝える新聞記事を集めました。建設計画では移動図書館車を2台用意しようとしていたり(実際は1台)、売店設置を検討していたようです(売店はない)。開館すると、浦和市民(当時約320,000人)の11%が登録し、1974年3月17日には4,717冊を貸し出し、日本の図書館では最高記録だという記述もみえます。市民から親しまれていた様子が伝わってきます。

※印刷の関係で文字が見えにくい部分がございます。記事の詳細については、『埼玉新聞本誌製本版』(大宮図書館所蔵 欠号のため1974年1月11日3面の記事を除く)、『埼玉新聞マイクロフィルム』(大宮図書館所蔵)でご覧いただけます。

1972年9月8日 2面→

## 移動図書館も購入？

### 浦和市立図書館 建設計画 詰めめの段階

県最大の国立図書館がある浦和は、これまで図書館建設は、大宮市立図書館に準じていたが、ようやく浦和独自の図書館建設が、建設計画に盛り込まれることになり、浦和市民の期待が膨らんでいる。

浦和には、浦和中央図書館、浦和南図書館、浦和北図書館の3館を建設する計画があり、浦和市民の期待が膨らんでいる。

浦和市民の期待が膨らんでいる。浦和市民の期待が膨らんでいる。

## 新刊本ならなんでも

### 浦和市立図書館オープン

浦和市民の期待が膨らんでいる。浦和市民の期待が膨らんでいる。

浦和市民の期待が膨らんでいる。浦和市民の期待が膨らんでいる。

1974年1月12日 3面→



チビっ子たちといっしょに相川市長もさっそく読書—市立図書館オープン—

1974年1月11日 3面↓

## 近代的な地上四階建 映画や音楽会も出来る

### 市民待望の浦和市立図書館本日オープン

浦和市民の期待が膨らんでいる。浦和市民の期待が膨らんでいる。



浦和市長 相川 曹司



浦和市立図書館の落成にあたって  
館長 鈴木 四郎

完成した浦和市立図書館

案内図

浦和市立図書館

浦和市立図書館

# 開かれた図書館の頭脳



浦和市立図書館長

## 鈴木木四郎氏

こどもに「プ」の浦和市立図書館長、鈴木木四郎氏。開かれた図書館と、市民の頭脳を育てる。浦和市立図書館長、鈴木木四郎氏。開かれた図書館と、市民の頭脳を育てる。浦和市立図書館長、鈴木木四郎氏。開かれた図書館と、市民の頭脳を育てる。

浦和市立図書館は、四月十七日に、浦和市の中心部、浦和駅南口から徒歩五分のところに、新しい図書館がオープンした。浦和市立図書館は、浦和市の中心部、浦和駅南口から徒歩五分のところに、新しい図書館がオープンした。



「文学少年でした」と鈴木木さん

## 幼少時から本の虫

## 小説家になりたかった...

鈴木木四郎氏は、幼少時から本の虫で、小説家になりたかった。浦和市立図書館長として、市民の頭脳を育てる。浦和市立図書館長として、市民の頭脳を育てる。

## 本を読むなら図書館 移動より市町村立を

本を読むなら図書館。移動より市町村立を。浦和市立図書館は、市民の頭脳を育てる。浦和市立図書館は、市民の頭脳を育てる。

# さすが文教都市

オープン10ヵ月の浦和市立図書館



登録者数が人口の1割をこえた浦和市立図書館

## 人口の11%が登録 貸し出しも50万冊超す

浦和市立図書館は、オープン10ヵ月、登録者数が人口の11%をこえ、貸し出しも50万冊を超した。浦和市立図書館は、オープン10ヵ月、登録者数が人口の11%をこえ、貸し出しも50万冊を超した。

## 新刊書に人気集まる

浦和市立図書館は、新刊書に人気を集めた。浦和市立図書館は、新刊書に人気を集めた。

↑1974年4月17日 6面

1974年10月15日 5面→

# 浦和市立図書館開館1年後の状況

浦和市立図書館は1974年1月に開館後、貸出点数の多さが話題となり、県外の図書館からの見学が相次いでいたそうです。

開館1年後の図書館の状況が分かる資料として、初代図書館長鈴木四郎が1975年3月発行の埼玉県公共図書館協議会の会報に執筆した「開館一年の感想」を転載しました。

—登録率12%・貸出70万冊—

## 開館一年の感想

浦和市立図書館長 鈴木四郎

年度末の旅費消化のためもあるのか、二月に入ってから県外からの見学者が相次いでいる。毎回その相手をし説明をくり返すうちに、彼等が一つの共通した疑問を抱いていることに気がついた。それは、私どもが宣伝したのではなく、図書館雑誌その他が報じた『一日平均2,000冊の貸出し』の秘密？を探ることらしく、そこで質問される前に、私の方から次のように総括して説明している。— —

「浦和市立図書館は、開館満一年を迎えた赤ん坊の図書館です。皆さんの図書館のような伝統の重みや運営の奥行きは、まだありません。又、先進都市にみられるようなサービス・ポイントの展開もありません。それらのことは、一年間の実績の上に立ってこれから慎重に考え実行して行くつもりです。

私達が開館に当たって重視し、その後努力してきたことは、二つのことにつきます。一つは、市民の皆さんに喜んで利用してもらい、「市立図書館が出来て良かった」という実感が持ってもらえる図書館にしたい。二つには、公共図書館の基本的機能である『資料の提供とその促進』に館の全能力を傾けることでした。いいかえると、今まで県立図書館があつて市立図書館のなかった浦和市に「もう一つ図書館が増えた」のではなくて、『市民に役立つ市立図書館』の出発の姿勢を確立することでした。

受付の廃止、完全オープン制、予約制度、レコード・雑誌の貸出し、閲覧室の廃止等はその現われで、べつに奇をてらったり、新味をねらった積りありません。欧米の図書

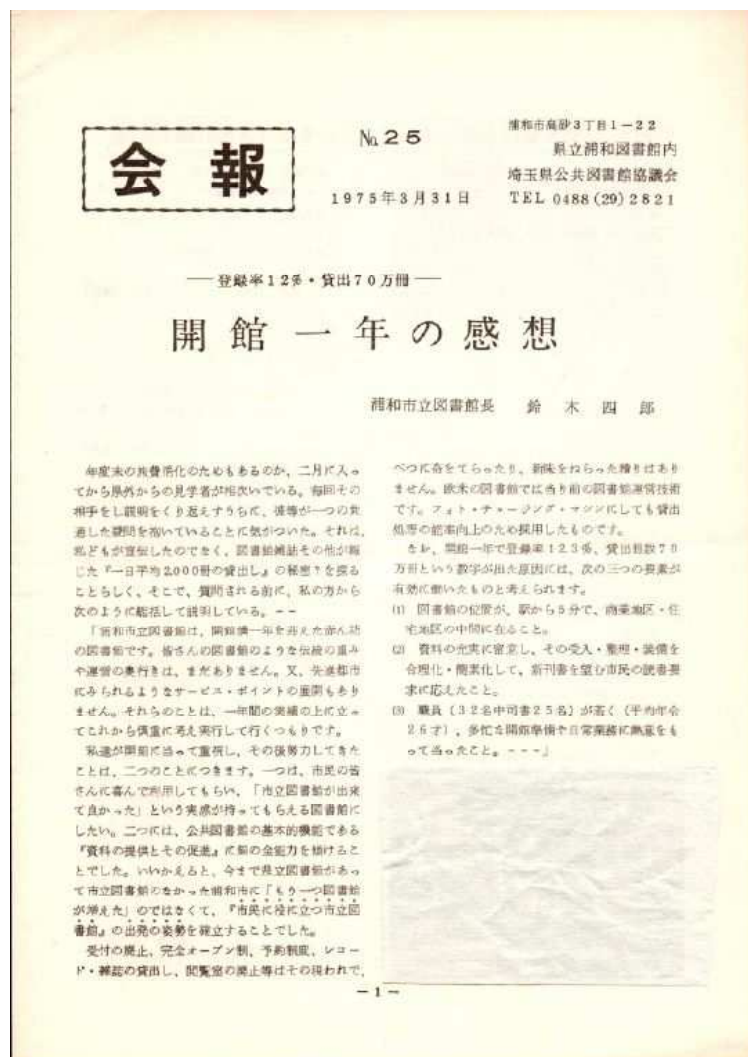


館では当たり前の図書館運営技術です。フォト・チャージング・マシンにしても貸出処理の能力向上のため採用したものです。

なお、開館一年で登録率12.3%、貸出冊数70万冊という数字が出た原因には、次の三つの要素が有効に働いたものと考えられます。

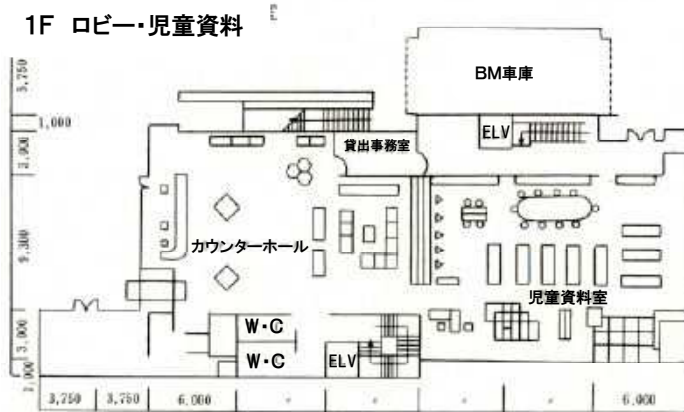
- (1) 図書館の位置が、駅から5分で、商業地区・住宅地区の中間に在ること。
- (2) 資料の充実に留意し、その受入・整理・装備を合理化・簡素化して、新刊書を望む市民の読書要求に応えたこと。
- (3) 職員(32名中司書25名)が若く(平均年齢26才)、多忙な開館準備や日常業務に熱意を持って当たったこと。―――

『「会報」No.25 1975年3月31日 埼玉県公共図書館協議会発行』より転載



## 浦和市立図書館開館時、1階～3階の館内配置図

1F ロビー・児童資料



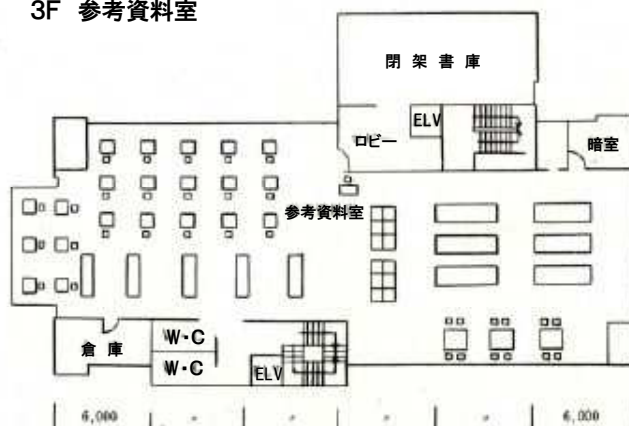
開館時は児童資料室が1階にあり、貸出・返却カウンターは入口側の窓際(現在は視聴覚資料が置いてある辺り)に設置されていました。現在は小説、実用書、文庫、雑誌、視聴覚資料等が置かれています。

2F 一般資料室



開館時は一般資料室でした。現在は一般資料、参考資料、地域資料、「うなぎとさつまいも」コーナー、新聞が置かれています。

3F 参考資料室



開館時は参考資料室でした。現在は児童資料室と学校図書館支援センターが置かれています。

# 北浦和図書館開館 50 周年記念 イベント一覧

令和5年度、開館 50 周年を迎えるにあたり北浦和図書館では、図書館ホームページ内に開館 50 周年記念特別ページを開設して、9月以降に館内で実施した様々な記念イベントの PR を行う他、長年にわたり蓄積してきた資料をもとに作成したクイズ「うなぎ・さつまいも検定」、さいたま市のキャラクター「ヌウ」がさつまいもを持った絵にぬりえができる「さつまいも(紅赤)のぬりえに挑戦」といったコンテンツを公開しました。

## 図書館内で実施した開館 50 周年記念イベント

### \* 展示ケース「移動図書館しらさぎ号の歴史」

実施期間：9月5日（火）～10月1日（日）

1階展示ケースを使って、かつて北浦和図書館から出発して、市内各所を巡回し、利用者に本を届けていた、移動図書館しらさぎ号の写真を展示しました。



移動図書館しらさぎ号は 1975 年 4月から 2007 年 11月まで市内各所を巡回し、合計4台製作されました。この展示では、初代～第4代しらさぎ号の写真をメインに、展示ケースの中には第4代しらさぎ号の製作工程が分る写真も展示しました。

\* ぬりえ「さつまいも（紅赤）のぬりえに挑戦」

実施期間：10月3日（火）～10月29日（日）

さいたま市のキャラクター「ヌウ」がさつまいもを持ったぬりえを北浦和図書館内で配布しました。おうちでぬってもらった絵を図書館でかざりました。



\* 展示ケース「紅赤はさつまいもの女王」

実施期間：10月3日（火）～10月29日（日）

北浦和図書館では地域資料としてうなぎとさつまいも関連の資料収集に力を入れています。1階展示ケースを使って、さつまいも関連の展示を実施しました。



木崎村針ヶ谷(現さいたま市の北浦和周辺)が発祥の地であるサツマイモの品種「紅赤」。この展示では「紅赤」のPRパンフレットや、発見者である山田いちさんを紹介するパネルの展示を行いました。



**\* 映画講座「風と共に去りぬ ～名画をもっとおもしろく～」**

講師：映像研究家 小杉美智子氏

実施期間：10月27日（金）、11月2日（木） 2回連続講座

北浦和図書館ができる前、この場所には「北浦和映画劇場（シアターパール）」という名の映画館が建っていました。この地に映画館があったことにちなんで、記念行事として映画講座を開催しました。通常の映画会とは異なり、講師の小杉先生による映画の見どころの解説を交えながら鑑賞する2回連続の講座でした。



**第1回の開講直前。最初に30分程度、小杉先生から映画「風と共に去りぬ」の講義があり、上映開始後も場面の映像効果のすばらしさや登場人物の解説等を随所に交えつつ映画を鑑賞しました。**

**\* 展示ケース「写真で見る北浦和の昔 ―古い町並みの写真の展示―」**

実施期間：10月31日（火）～11月19日（日）

1階展示ケースを使って、昭和30年代の中山道の風景や昭和40年代の北浦和駅舎改築工事等、北浦和図書館近辺の懐かしい写真を展示しました。



**中山道の写真にはボンネットバスやオート三輪車等の懐かしい乗り物が写っています。また、昭和43年10月の北浦和駅の落成式の写真を見ると、当時、東口にタクシープールやバスの発着所があったことが分かります。**

\* 展示ケース「図書館が映画館だった頃 北浦和映画劇場」

実施期間：11月21日（火）～12月28日（木）

1階展示ケースを使って、当時のチラシやチケットの半券等、北浦和映画劇場に関連する品々を展示しました。



北浦和図書館ができる前、この場所には浦和映画劇場(シアターパール)という映画館が建っていました。俳優の愛川欽也さんは浦和高校在学中によく通っていたそうです。今回、展示したチラシ等は市民の方々に呼びかけて寄贈いただいたものです。

\* 映画会『地上より永遠に』 監督：フレッド・ジンネマン 1953年作品

実施期間：12月15日（金）

北浦和映画劇場で実際に上映されていた作品を鑑賞する映画会を実施しました。



1階のカウンター前に設置された、さいたま市図書館のキャラクター「としょ丸・としょ子」の立看板。50周年記念のロゴ入り。

## 図書館ホームページ内で実施した開館 50 周年記念イベント

### \*クイズ「うなぎ・さつまいも検定に挑戦」

北浦和図書館で長年にわたり蓄積してきた資料をもとにうなぎ、さつまいも関連のクイズをそれぞれ 25 問作成しました。



うなぎ検定の 1 問目  
「地上にうなぎがあらわれたのは、いつごろ?」

答え:「今から数千万年前」

【うなぎ検定】 さいたま市図書館ホームページ トップページ>10代のページ>地域ものしり検定>の「地域のけんてー」の中にある「浦和けんてー (うなぎ編)」です。

【さつまいも検定】さいたま市図書館ホームページ トップページ>10代のページ>地域ものしり検定>の「地域のけんてー」の中にある「浦和けんてー (さつまいも編)」です。

### \*ぬりえ「さつまいも (紅赤) のぬりえに挑戦」

さいたま市のキャラクター「ヌウ」がさつまいもを持ったぬりえを図書館ホームページ上でもできるようにしました。



マウスで下の色をクリックすると  
その色でぬりえができます。

【きたらわとしよかんべにあかぬりえ】

さいたま市図書館ホームページ トップページ>こどもの本のページ>としよ丸ちゃんねるの「こうさく」の中にある「きたらわとしよかんべにあかぬりえ」です。

## 【編集後記】

編集委員を快諾してくださった三人の大先輩方(かつての上司でもある)と月1回、編集作業をしてまいりました。記念誌に書けない面白エピソードがたくさん飛び出して、もう1冊別の記念誌を作りたかったほどです。作業を通じて開館時の館長をはじめ職員の方たちの志が伝わってきました。五十年が経過しても市立図書館の根本理念は全く変わらないことがよくわかりました。これからも市民の役に立つ図書館であり続けたいです。

(北浦和図書館館長補佐 古川耕司)

編集会議で、開館当初からの記録資料や写真を見ていると、思い出話に花が咲き、会議が進まないこともありました。編集会議があった夜は、若かりし頃の先輩・同僚の夢を見ました。肉体労働だった蔵書点検・移動図書館 etc. 辛く、大変だったことも、楽しい思い出となってよみがえります。

北浦和図書館は、司書になるきっかけと、図書館で働くという夢を叶えた場所です。その記念誌編集に参加できたことに感謝です。

(元北浦和図書館職員 吉田明美)

生まれた子どもが50歳になるまでには、いろいろな事が起こります。

図書館も同じこと。50年の間には図書館の立ち位置が大きく変化したと思います。

退職して10年、50周年記念誌の編集に参加することになって、振り返ってみるとさまざまな出来事があったなあと感慨深い思いです。

時には不思議なことに辛い思い出も楽しい思い出に変えてしまいます。一緒に働いたみんなにあいたいなあ。

(元北浦和図書館職員 佐藤弘子)

昭和48年の春、浦和市立図書館が1年後位に開館するとの新聞記事を見つけました。早速旧浦和市教育委員会の木造庁舎に行き、司書採用の予定はないかと聞くと、今のところ予定はないが、履歴書を出して下さいと言われ提出しておいたところ、8月ころ採用試験の案内が送られ、応募して受検。めでたく合格。管理係のIさんからアルバイトに来ないかとの電話があり、1月からアルバイト勤務。4月正式採用。それから50年。「光陰矢の如し」の感慨ひとしおです。

(元北浦和図書館職員 分須正弘)







この地に浦和市立図書館(現北浦和図書館)が建設される以前は「北浦和映画劇場(シアターパール)」という名の映画館が建っていました。

[写真 『キネマ旬報』1995年2月下旬号より]

## さいたま市立北浦和図書館 開館 50 周年記念誌

発行 令和6年1月

編集・発行 さいたま市立北浦和図書館

〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-4-2

電話 048-832-2321

FAX 048-832-2324

Eメール [kitaurawa-lib@city.saitama.lg.jp](mailto:kitaurawa-lib@city.saitama.lg.jp)

ホームページ <https://www.lib.city.saitama.jp/>

この冊子は200部作成し、1部あたりの作成費用は、86円(概算)です。